

佐野高等学校

地域連携教員	宇賀神 茜 教諭	地域連携教員歴	1年
--------	----------	---------	----

1 コーディネーターについて

佐野高等学校のコーディネーターは、学区内の中学校を活動拠点とし、近隣の小・中学校で積極的に地域コーディネーターとして活動されている方である。この方は、佐野市の中間支援センターの職員でもあり、職員である利点を生かし、高等学校でも活動してくれている。佐野高等学校の校務に地域連携担当が設置されたこと、また、教員とコーディネーターの家族が知り合いであったことがきっかけとなり、活動が始まった。

2 コーディネーターとの連携の実際

○小学校への読み聞かせボランティア

コーディネーターの活動拠点である中学校では、生徒がボランティアとなり、以前から小学校での読み聞かせを行っていた。小学校から、高校生のボランティアもぜひ紹介してほしいという話がコーディネーターにあり、佐野高等学校の生徒ボランティアを募集することとなり、昨年度から活動が始まった。昨年度は図書委員会を中心にボランティアを呼びかけたところ、高校生 10 名、附属中学生 4 名が参加することとなった。活動するにあたり、昼休みの時間を使って事前練習を 2 回行った。事前練習では、市立図書館の司書や市内の図書ボランティアが講師として来校し、本の選定や読み方の指導をしてくれた。実際の活動では、小学校の朝読書の時間に 2 人 1 組となって各教室に行き、読み聞かせを行った。小学生にとって、年齢の近いお兄さん、お姉さんはとても親しみやすい存在であり、活動は好評を得ている。また、ボランティアとして参加した中学生にとっては、年上の先輩として振る舞える良い機会となっている。



事前練習の様子

○小・中学生への学習支援ボランティア

コーディネーターが活動している小・中学校及び市民活動センターにおいて、小・中学生を対象に、夏休みの課題の支援や授業の補習等を行う学習支援活動を行っている。コーディネーターからの呼びかけで、昨年度から佐野高等学校の生徒が、教員のサポートを行う学習支援ボランティアとして参加・協力している。ボランティアとして参加している生徒の中には、将来、小学校の教員を目指し、自分の進路を踏まえて参加している生徒もいる。そのような生徒にとっては、自分の進路に結び付く貴重な機会となっている。また、小学生は高校生が丁寧に教えてくれることがうれしいようで、質問も積極的に出され、学習がはかどる良い機会となっている。

○コーディネーターとの連携上の工夫

コーディネーターとの連絡は、電話やFAXでのやりとりが多い。コーディネーターが来校してくれることもあるが、授業に出ている場合等は、教員側が時間を合わせるのが難しい。附属中学校にも地域連携教員がおり、活動は一緒に行っているため、中学校の教員と連携して、どちらかがコーディネーターに対応できるようにしている。

3 成果と課題

○成果

コーディネーターは、地域連携活動の様々な連絡調整を主体的に行ってくれるので、とても助かっている。ボランティアを募集する際は、募集のチラシを作成してくれるため、教員が日時や会場等の必要事項を細かく確認しながら作成することがなく、すぐに生徒の募集をかけられる。また、受け入れ先との連絡調整も万全で、このような点からも教員の負担がかなり少なくなっている。

小学校での読み聞かせボランティアについて、小学校からは回数を増やしてほしいとの話があった。しかし、高校生も多忙であり、回数を増やすという要望には応えかねた。このような相手先に伝えにくい返事もコーディネーターが間に入ってくれることでうまく伝えることができ、学校と受け入れ先がお互いの要望・状況等について率直に伝えやすくなっている。

○課題

コーディネーターとの連絡は電話、FAXを使うことが多い。FAXでの連絡の場合、教員が出張等で不在になる場合や、気づかないうちに連絡が入っていた場合に確認が少し遅れてしまうことがあり、生徒への連絡が活動の直前になってしまうこともある。学校や地域連携教員の予定をコーディネーターに事前に伝える等、連絡がよりスムーズに伝わるような工夫も考えていきたい。

4 その他

地域連携教員になり、活動をする上での学校側の連絡調整(生徒の出欠、担任教諭への連絡等)の業務が増えたが、活動の企画、受け入れ先の連絡調整、当日の生徒の活動支援等、多くのことをコーディネーターが行ってくれるので、地域連携教員としてとても大変だと感じることはない。コーディネーターがいてくれてよかったと感じている。